

日本教育社会学会第 76 回年次研究大会トラベルグラント報告書

公開日：2024 年 10 月 17 日

公表者：一般社団法人 日本教育社会学会 事務局

王 雨遥（一橋大学大学院）

この度、日本教育社会学会において「中国の大学における必修科目としてのインターンシップの現状と課題 ―A 大学の卒業生と教員に対するインタビュー調査を通して―」に関する研究発表を行いました。初めての学会発表で非常に緊張しましたが、多くの方々から貴重なご意見や助言をいただき、研究の方向性や課題をさらに明確にすることができました。この場を借りて、改めて深く感謝申し上げます。

特に、発表に対していただいた「教員と企業の役割分担」や「調査対象者の選定」に関するご指摘は、今後の研究を進める上で重要なヒントとなり、さらなる研究の発展が期待できると感じております。これらのコメントをもとに、今後も研究をより一層質の高いものにしていきたいと考えております。

また、他の参加者による質の高い発表を拝聴し、非常に多くの学びを得ることができました。さまざまな研究手法やテーマに基づくアプローチに触れることで、自分の視野を一層広げ、これまで気づけなかった新たな知見を得ることができました。これまでの自分のアプローチを見直すとともに、さまざまな視点から柔軟に研究を進めることの重要性を再確認する貴重な機会となりました。

今回の学会を通じて、教育社会学の研究者の方々との交流を深め、学問的な視野を広げることができたことは、非常に貴重な経験でした。今後も研究を続け、さらに深めていきたいと思っております。最後に、発表を通じて助言をくださった皆様に、心より感謝申し上げます。

鯨井 健斗（東京大学大学院）

この度は、トラベルグラントに採択いただき、日本教育社会学会第 76 回年次研究大会において「児童による応答の方向修正はいかにして可能になっているのか ―小学校における授業実践の分析から―」というタイトルで発表をさせていただきました。「教育と相互行為」部会には多くの方が聞きにきてくださりました。貴重な機会をいただき、ありがとうございます。初めての学会発表でしたので大変緊張いたしました。司会の森一平先生はじめ、同じ部会でご発表された平井大輝さん、

石野未架先生，高木誠一先生にお世話になりながら，総括討論では「教育と相互行為」の研究に関して闊達な議論をさせていただきました。また，発表の質疑の際には，粕谷圭佑先生に重要なお質問・ご指摘をいただきました。今後の研究に活かしていきたいと思います。

発表以外にも学会期間中には若手研究者交流会に参加させていただきました。所属する大学院のゼミでは教育社会学を専門とする院生が少ないため，多くの方と交流をし，教育社会学の分野の中でつながりを作れたことが大変嬉しかったです。また，様々な部会やシンポジウムに参加し，教育社会学の多様な知見を得ることができました。

最後にはなりますが，この度トラベルグラントに採択いただいたことに重ねて御礼を申し上げます。今後とも教育社会学の発展に寄与できるよう，研究を進めて参りたいと思います。今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。

陳 炯楷（早稲田大学大学院）

助成金をいただき，心より感謝申し上げます。若手交流会と部会を含む3日間の教育社会学会に参加することができ，さまざまなことを学びました。若手交流会では，ゼミの先輩とお会いできただけでなく，先輩から多くの研究仲間を紹介してもらいました。グループ分けのメンバーからも親切に悩みを聞いてもらい，統計の勉強法についても教えていただきました。knb や残差得点など，聞き慣れない専門用語に悩んでいた私に，これらの分析に詳しい先輩研究者を紹介してくれたのは，本当にありがたいことでした。温かい雰囲気の中で，とても充実した時間を過ごしました。

部会では，初日の午後に研究発表を行いました。「II-5 教育と社会階層（1）」のセッションで，「非大卒親・子教育アスピレーションの「温度差」：CEPS 調査に基づく実証分析」というテーマで発表しました。松岡先生が司会を務め，学会賞を受賞された中西先生，韓国の教育熱についての研究をされた有田先生，そして「社会階層と教育研究の動向と課題」でお名前を知った平沢先生と一緒に部会で発表するという，緊張感のある環境でした。しかし，フロアの温かい雰囲気に支えられ，無事に発表を終えることができました。

学会は研究発表の場だけでなく，仲間との出会いやアイデアの交流が生まれる貴重な場でした。来年もぜひ発表の機会をいただければと思います。今年の学びを糧にして，来年に繋げていきたいです。

早川 あゆ美（京都大学大学院）

この度はトラベルグラントに採用していただき、誠にありがとうございました。

2024年9月13日・14日に信州大学長野（教育）キャンパスで開催された第76回大会において発表を行ったため、下記の通り報告いたします。

〈発表内容〉

大会2日目の研究発表IV-1部会「教育費」にて、「低所得者支援としての塾代等助成事業——『受験生チャレンジ支援貸付事業』に関する都議会議事録の分析」と題して発表を行いました。東京都の受験生チャレンジ支援貸付事業について、都議会ではどのような議論が行われている／いないのかを、KH Coderを用いた計量テキスト分析と質的分析から明らかにしました。

〈所感〉

今回の発表では、①分析方法や結果の解釈について、②事業の内容や変遷の詳細について、の主に2つの視点からご質問・ご助言をいただきました。特に①について、KH Coderを用いて議事録分析を行ううえで、トピックだけでなく議論のロジックが見えるとよい、とのご指摘をいただきました。加えて、コーディングを行うことでこの課題が解決できるのではというご意見も頂戴しました。さらに、対応分析について、連続した年度のまとめりだけでなく、連続していない年度でも対応分析上で近くに出現している年度で類似点が見られるのではないかとのご指摘もいただきました。②については、提出書類の種類・数や、実施要綱の改定についてご質問をいただき、事業を対象に研究を進めるうえでそれらを捉えておくことの重要性を改めて認識しました。

今回いただいたご質問やご助言から学んだことを活かして、今後も研究に励んでいきたいと思っております。改めまして、本当にありがとうございました。

師岡 あゆみ（お茶の水女子大学大学院）

本研究の目的は、学生時代に抱く学習の「価値」が、社会人の人生充実度と収入に与える影響を検討することである。先行研究では、威信の高い大学を目指す学歴ベースの進路選択と、学習を将来の職業に役立てたいという職業ベースの進路選択

の2つが着目されてきた。一方で、心理学の進路選択の理論では、学歴と職業だけではなく、学習への興味・関心をもとにした「興味ベース」の進路選択が存在し、どのように学習の価値（学歴・職業・興味）を捉えるかが進路選択に影響を与えるとされてきた（Eccles & Wigfield 1985）。国内ではかつて、学校での自己実現を重視する進路選択が学習行動を阻害し、将来の安定を阻害する可能性が指摘されてきた（荒川 2009）。しかし、学習そのものに興味を抱く場合は、学習を阻害せず、将来の生活にプラスの影響を与える可能性がある。その点を十分に検討し、学習への価値が長期的に進路選択に与える影響を検討した国内の先行研究は数少ないと考えられる。

そこで本研究は、「学生時代に抱く学習の価値が、社会人の人生充実度と世帯収入に関連する」という仮説を検証した。その結果、学習が将来に役立つと感じることと、興味を持つことが社会人の精神的な充実度に寄与した一方で、世帯収入に寄与したのは学習に興味を持つ場合のみであった。本研究は、学歴ベースと職業ベースだけではなく、「興味ベース」に基づく進路指導の可能性にも着目する必要性を示唆するものとなった。

依田 公華（東京大学大学院）

「理容師・美容師のライフコースと職業規範に関する社会学的分析」という題目でポスター発表をさせていただいた。本報告は、現在執筆中の修士論文の中間報告に位置づくものである。報告者が実施した理容師免許または美容師免許所持者へのインタビューのデータを用い、理容師・美容師がかつてどのような志向を持って理容師免許または美容師免許の取得を目指したのか、自他に対する評価をいかに就業時や就業後のキャリア形成の根拠として使用し、その選択を意味づけていたかを明らかにした。本報告では暫定的な結果として、免許取得の三つの志向（手に職をつけることを第一の目的とする「手に職」志向、メディアで目にしたカリスマ的存在としての美容師に憧れる「夢追い」志向、美容に関する仕事を強く志しており大学進学に意義を見出さない「好きなこと」志向）と、美容師自身が従うべきと考える三つの規範（施術の完成度・美しさを目指す「高度な技術」規範、客に好かれる人間性・コミュニケーションを重視する「サービス」規範、業界内部で評価される独創性・奇抜さを発揮する「クリエイティブ」規範）を抽出した。発表時には多くの会員の皆様にご質問やご指摘をいただくことができ、本報告で記述した志向と規範をどのように関連づけるか、修士論文全体をどのように展開させるかを再考する必要

があると強く感じた。また，美容分野を含む専門学生と接する機会のある会員の方から，専門学生に関する興味深いお話を聞くこともできた。本報告の実施によって得られた気づきを生かし，修士論文の執筆に励みたい。